

ベトナム株情報 < 臨時号 >

ユナイテッドワールド・リサーチ



< 大幅安 > 急速なインフレ対策の副作用

ベトナムVN指数は2月25日、+4.1%の715.0ポイントと大きく自律反発したが、年初からだ22.9%低い水準。過去最高の1170.6ポイント(07年3月12日から)をつけた2007年3月12日からでは38.9%の大幅下落だ。

2月に入って下げが加速し、2月21日には-4.6%と2006年以降、最大の下げをみせた。背景には深刻なインフレを抑制するため、急速な引き締め策を展開していることが挙げられる。

- ・1月16日 ベトナム国家銀行(中央銀行)は預金準備率を10%から11%に引き上げを決定。
- ・1月30日 政策金利を引き上げ。
- ・2月17日 ベトナム国家銀行は市中の資金を吸収するために20.3兆ドン(約12億7000万ドル)の財政省債券の発行(3月17日発行、償還期間364日で年利7.8%)を決定。

< 今後の展望 > 政府対策もあり底打ち近いか

政府は株式市場の下落を放置しているわけではない。財務省は税制見直しを検討、各方面から意見を集めている。法人税を現在の28%から25%に引き下げるともされる。また、開発投資を促進するため、土地譲渡税の廃止を検討していると一部報道。

インフレ対策は当面継続と思われるが、株式市場では割安感が出る水準となり、打診買いも入りつつある。先週後半から買いが増え始め25日(月)はホーチミン市場上場152銘柄のうち146銘柄がストップ高となった。上場銀行トップのサコムバンクも+4.7%と反発したが実績PERは15.2倍と昨年7月のピーク時62.8倍からかなり低下している。ベトナム市場にはもはや、割高感はない。底打ちも近いとみられる。今週央に発表される2月のCPIに注目される。

< 金融引き締めの背景 > インフレ率が14.1%

1月のCPI(2005年=100)は124.73で前年比14.11%、前月比では2.38%だった。食品の値上がり率が著しかった。

CPI前年比	
2008年1月	14.11%
2007年12月	12.63%
2007年11月	10.01%
2007年10月	9.34%

< 影響 > 銀行の利益率を圧迫

- ・銀行間の預金金利競争が激化(2/21時点で一番高いところで10.8%)し、銀行の利益率を圧迫。業績悪化が予想される。
- ・銀行融資に頼る不動産業界も痛手。

政策金利変更(1月30日)

	旧	新
プライムレート	8.25%	8.75%
リファイナンスレート	6.50%	7.50%
ディスカウントレート	4.50%	6%

プライムレート: 最優遇貸出金利

リファイナンスレート: 市中銀行への貸し出しの際の再割引金利

ディスカウントレート: 市中銀行から有価証券を買い戻す際の公定歩合

ベトナム株と世界の新興国株(07~08年、日足)



この資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資対象となる有価証券の価値や投資から得られる収入は、証券価格の変動のほか、発行体の経営・財務状況の変化、金利や為替相場の変動やその他の要因によって変化する可能性があり、投資額を下回る場合があります。また過去の実績は必ずしも将来の成果を示唆するものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。

本資料は、ユナイテッドワールド証券が信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成されたものですが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記された意見や予測等は、資料作成時点での当社の判断であり、今後予告なしに変更されることがあります。

本資料はユナイテッドワールド証券の著作物であり、事前の承諾なく、本資料の全部もしくは一部を引用または複製、転送などにより使用することを禁じます。